

## 第2回定例会質疑

2021・6・15

(猿渡 県議)

医療関係者や保健所をはじめコロナウイルスの対応に奮闘努力されている各分野の皆様  
に敬意と感謝を申し上げます。

1つ目に2021年度一般会計補正予算(第5号)について質疑させていただきます。

政府は、「コロナでは感染拡大の波が繰り返されることは避けられない」と弁明していま  
すが、「波」が繰り返されるごとに命が損なわれ、社会の疲弊が深刻になっています。こう  
した姿勢を続けることは許されないと考えます。「政府は『コロナ封じ込め』を戦略目標に  
するべきだ。」と日本共産党は国に求めています。

まずワクチン接種を行う市町村支援について質問します。

コロナを封じ込めるためには、希望者へのワクチンの接種を急いで進めることが重要です。

先般の臨時会において、知事は「県立病院などの大規模病院や県看護協会などと連携し、  
医師や看護師等の広域派遣により、市町村をしっかりと支援する」との答弁をしていますが、  
どこまで進んでいるのか、今後の見通しについてもご説明下さい。

また、ワクチン接種に苦勞している市町村への支援を強めることも重要だと考えます。

ワクチンの安全・迅速な接種を進めるためには、現場の実態をリアルに把握し、ネックと  
なっている問題をつかむことが重要です。県では、現在13名のワクチンチームが早期接種  
の実現に向けて、努力していますが、さらに体制を強化するため、直接各市町村に1人ずつ  
派遣し支援できる体制を執るべきではないか、と考えます。

さらに、ワクチンの供給スケジュール、配分量等について確定したら日付を速やかに示す  
ことが必要です。国と自治体の連絡調整役として、都道府県などの職員を国に派遣している  
自治体もあります。大分県から国へ職員を派遣しているのでしょうか。派遣しているの  
であれば、具体的にどのような役割を發揮し支援チームや市町村とどう連携しているの  
のでしょうか。苦勞されている課題についても教えていただきたいと思います。

次にワクチン接種体制緊急強化石業について、今回提案された補正予算案の個別接種を進  
めるための手当や協力金を支給するワクチン接種体制緊急強化石業について伺います。

県は個別接種を中心に集団接種を交えて高齢者のワクチン接種を7月末までに完了させ  
るとしてはいますが、現在の個別接種の状況について、ワクチン接種を行っている病院や診療  
所が何ヶ所あるのでしょうか。また、今回の補正予算では、診療所に対して、週100回以  
上接種した施設と週150回以上接種した施設にそれぞれ上乘せする手当を支給するとし、  
病院や診療所に対して、一日50回以上の集中的な接種した施設に協力金を支給するとの  
ことですが、それぞれ何ヶ所を見込んでおられるのか。最後に、この事業をどういう形で関係  
者にお知らせし、県内の接種回数をどこまで増やしたいと考えているのか伺います。

(知事)

私からまずワクチン接種を行う市町村への支援についてお答えします。

県民の命と健康を守り、県経済の再活性化を図るためには、一刻も早く希望する県民に対して、ワクチン接種を進めることは極めて重要であります。

現在、大半の市町村では、地元医師会等の協力により、独自に接種体制が確保され、高齢者への接種は順次進んでおり、全市町村で7月末までの完了見込みとなっております。

県としては、市町村の医療従事者の確保を支援するため、これまで大規模病院や関係団体に協力を要請し、広域派遣体制を確立したところであります。

すでに竹田市の集団接種会場に看護師を派遣したほか、今後も複数の市町村に対しまして、医療従事者の派遣を予定しております。

また県においても、こうした医師等の協力を得ながら県営ワクチン接種センターを開設し、並行して接種を進めることで、市町村、負担軽減にもつなげております。

次に、県のワクチンチームについてですが、市町村ごとの担当を定め、ワクチンの配分調整や、接種計画の進捗管理など、様々な相談に対応しております。

さらには、適宜市町村を訪問したり、頻繁にウェブ会議を開催するなど、緊密に連携しながら課題の洗い出しを行ってきたところです。

これまでも、優先接種の範囲やキャンセル対応策など県全体で統一的な対応が必要な項目について、基本的な方向性を示してきました。

なお、議員ご提案の県による効率的な予約センターにつきましては、各市町村において独自のシステムがすでに稼動していることから、特段、県が合わせて、やることは必要ではないのではないかというふうに考えています。

最後に、国への職員空け職員派遣についてです。

本年2月から自治体サポートチームとして、厚生労働省にリエゾン1名を派遣し、国の方向性や他県の状況、さらには、ワクチンの供給計画など、必要な情報を本県へ随時提供する役割を担わせてもらっています。

ワクチンを巡る情勢が日々刻々変わる中、迅速・的確な情報収集に苦勞しているようですが、引き続き国と県、市町村との、橋渡しの役割を期待しているところです。

今後も新型コロナウイルス感染症の収束を目指して、市町村と緊密に連携をしながら、ワクチン接種の早期完了に全力で取り組んでいきたいと思っております。

(福祉保健部長)

ワクチン接種体制緊急強化事業についてお答えいたします。

本県のワクチン接種体制は、個別接種を中心に、集団接種で補完する方法を進めています。

接種医療機関数は、病院、126ヶ所、診療所483ヶ所の計609ヶ所で、人口当たりの接種機関数は、医療機関の積極的なご協力のおかげで、全国トップクラスとなっております。

今回の補正予算においては、週150回以上接種する診療所は、広い駐車場や待合室を有する全体の約2割にあたる100ヶ所、また週100回以上接種するのは、それに準ずる規模の約3割にあたる150ヶ所の診療所と見込んでいます。

また、1日50回以上の集中的な接種を行う医療機関は、すべての病院126ヶ所に加え、1週間継続的に接種を行うのが困難な診療所として、約1割程度の50ヶ所を見込んでおり

ます。

関係者への周知につきましては、予算成立前ですが、対応が急がれるため、医師会とのWeb会議等を通じて、情報提供を行わせていただいております、すでに多くの問い合わせを受けているところです。

この事業により、個別接種会場の体制を強化し、高齢者の約2割強にあたる8万6000人分の接種促進を図りたいと考えております。

(猿渡 県議)

ワクチンの接種体制を具体的に数字も説明していただきまして、ありがとうございます。予約に対して市町村は、当初大変混乱をした状況も見受けられまして、市民の皆さんからもいろいろな声を伺っております。

そういう中で、キャンセルが相次いだり、予定通りいけばいいんだけども、一旦予約いただいたが入院等いろんな状況で変更になったり、そういうことが大変だという状況があるかと思うんです。

そういうことを含めて、やはり市町村の状況をよく聞きながら、支援を強めていただきたいというふうに思っています。

また、全国各地の進んだ事例で、相馬市では地域ごとに、場所と時間を指定して、集団接種で迅速に進めている。

どっかですね、練馬区では、診療所での接種と集団接種組み合わせ、スムーズに進めているとか、そういう事例に学ぶべきではないかと考えます。

また、ワクチンの供給のしっかりした見通しを示してもらいたいということも、市町村あるかと思しますので、その点含めてよろしく願いいたします。

そして、二つ目ですけれども、若い方や子供たちに対するワクチン接種への不安の声を聞きします。

社会人を含めて若い世代には副反応などのリスクをより一層しっかり説明をして、慎重に本人の判断を尊重するようにしなければならないと思います。

特に12歳以上の子供たちの接種が行われるわけですが、より慎重により丁寧に進めるべきだと考えています。

長崎大学大学院の森内教授は、このように述べています。「若い人の方が強い副反応が出てしまう」「12歳から15歳の副反応に関してはまだまだ十分なデータが出ていない」「今の治験のデータぐらいで健康な子供に接種するということは少なくとも推奨することは難しい」と述べてらっしゃいます。

小中高生など子供たちには、集団接種ではなく個別接種で行うべきではないかと思えます。

保護者だけでなく、子供自身にもしっかり反応のリスクなどを説明して、本人を含めた理解と同意の上で接種をするべきだと考えますが大分県の見解を求めます。

(福祉保健部長)

私の方からお答えさせていただきます。

議員仰ってましたように、ワクチン接種を進めるに当たりましては、全国或いは県内のすでに先行しているところでいろんな工夫を凝らしております。

例えば、中津市では、接種する医師が列を順に回って行って、高齢者の方は椅子に座ったままで医師の方が動いて接種するということで随分効率化が図られたような事例も聞いておりますし、別府市ではインターネットの使い方がわからないお年寄りのために相談コーナーを設けたといった事例を県内の市町村にも横展開するように、情報提供に積極的に努めているところです。

それから若い方々、特に子供さんのワクチン接種についての、副反応等の不安解消についてということですが、ご案内の通り新型コロナワクチンの接種は強制ではございません。

効果とリスクの双方についてしっかり情報提供を行った上で、同意がある場合に限り接種を行うというふうになっていて、12歳から15歳の方の接種については保護者の同意が必要で、予診票に保護者の署名がなければ接種は受けられないということになっております。

副反応の情報につきましては、国の方で集約して定期的に発表しております。

そういった情報を積極的に周知して、しっかりと情報提供を行った上で、判断をいただくということにしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

(猿渡 県議)

ありがとうございます。

別府市では当初、予約のためのサポートセンター設けたのですが、そこにも大変集中して、サポートセンターでいろんな混乱や不満の声が出たというふうなことも聞いております。その辺を踏まえて、実情に応じた支援を重ねて求めておきます。

世代を問わず十分にワクチンのメリットデメリットを説明した上で、同意のもとに接種するという事は申し上げるまでもないことです。

接種するかしないかで不利益をこうむったり、差別をされたりすることがあってはならないと、これは繰り返しいろんなところで言われていることであり、これも言うまでもないことですけれども、ワクチン接種を急ぐという世論が高まり、動きが高まる中で、その辺が軽視されることがないように重ねて求めて質問を終わりたいと思います。

ありがとうございました。